

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果について

京都市立松尾中学校

4月21日に、本校3年生182名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語、数学、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施しており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果】(国語・数学・理科)

国語A、国語B、理科については全国平均並みでしたが、数学A、数学Bは全国平均・京都府平均を下回りました。

無解答率(答えを書かない人の割合)は、数学Bのみ全国平均より若干高めでしたが、それ以外は全国平均と同程度か全国よりも低くなっています。これは、生徒が問題と向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が育ちつつあると考えています。

【国語科より】

漢字の読み(詳細・袖・載る)書き(縮尺・余る・秒速)についてはおおむね良好でした。ただし、以下の分野が少し気になります。

- 語句の使い方については、慣用句を使い慣れる必要があると思われます。(口火を切る・縁の下の力持ち)
- 「書く」力を見る問題については、少し課題が残ります。(資料一棒グラフから読み取った内容を適切に文章で表現する等)
- 文章の要約について考える問題も、課題が残りました。

慣用句(さじを投げる・渡りに船など)を覚えることは、表現力を豊かにすることや、文章読解にもつながります。意識して身につけるようにしましょう。

また、説明文に慣れるためにも、現在授業で行っているコラム欄の読解・要約の学習などに積極的に取り組みましょう。

【数学科より】

基本的な計算はよくできています。しかし、以下の分野に課題がみられます。

○数と式の分野

- ・数量の関係を文字式に表す問題
- ・連立方程式に関する問題

○図形分野

- ・証明に関する問題(平行四辺形になるための条件)
- ・図形の移動に関する作図問題

○関数分野

- ・変域に関する問題
- ・関数を利用し、事象を数学的な表現を用いて解釈する、説明する問題

関数分野については、全体的に正答率が低く、無解答率も多いことから、苦手な生徒が多いことがわかります。3年生では、これから関数分野の学習が始まるため、1・2年生の復習をしっかりして学習を進めていきましょう。

また、無解答率は低くても、正答につながっていない部分がみられます。問題を読む力、解答を見直す力についていましょう。

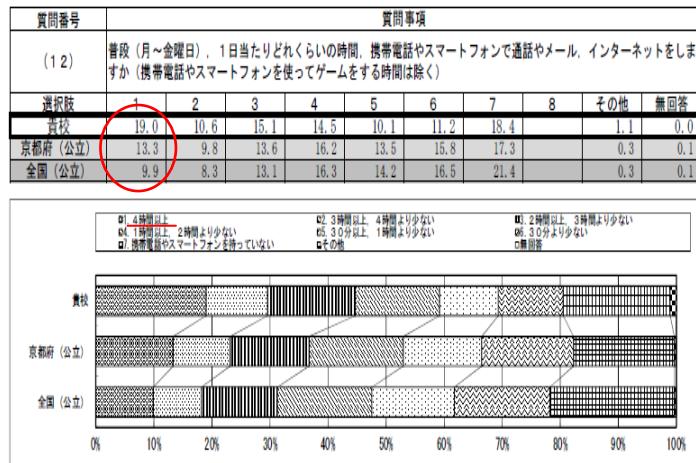
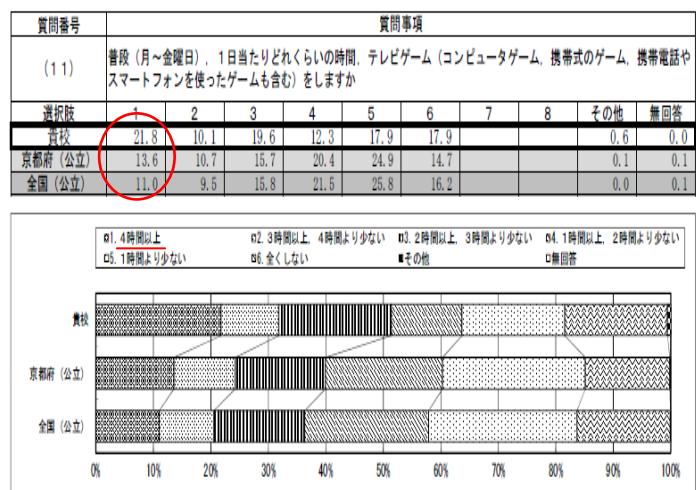
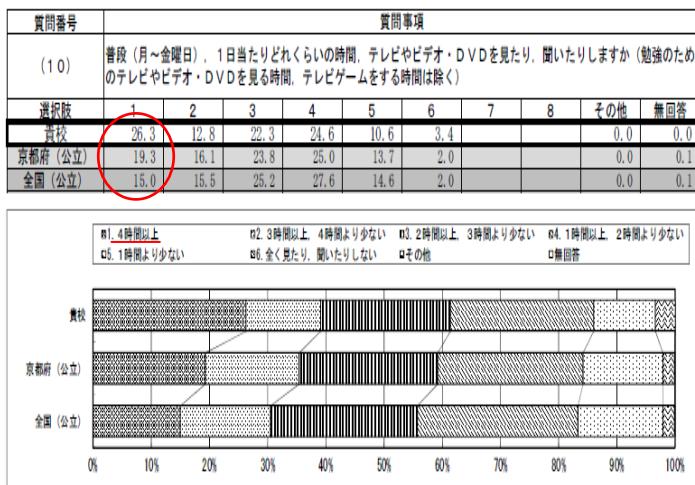
【理科より】

- 物理的領域では、基礎的な問題には答えられているものの、計算問題になると正答率が下がります。公式をしっかり覚え、計算の練習をしておきましょう。
- 化学・生物的領域では、科学的思考を問われる問題で、正答率を落としています。内容の復習をしっかりして記述対策をしておきましょう。
- 地学的領域では、全国平均を上回りました。特に気象に関する問題で正答率が高くなっています。その調子で頑張ってください。

【生徒質問紙調査で見えてきた松尾中学校生の課題】

① 長時間に及ぶテレビ視聴、ゲーム・スマホ(ケータイ)の利用

平日にテレビやビデオを見る時間が1日「4時間以上」の人が25%超、テレビゲームは「2時間以上」までの人気が5割を越えます。また、スマホやケータイでの通話、メール、インターネット利用が「2時間以上」までの人人が約45%で、いずれも京都府・全国を大きく上回っています。

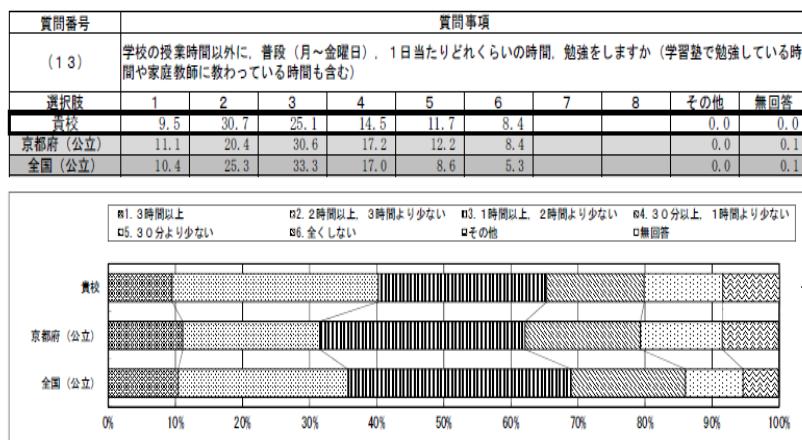


京都府・全国と比べて利用時間が長くなっています。
「テレビづけ、ゲームづけ、スマホづけ」になっている松中生の日常生活の一端が読み取れます。

裏面につづく→

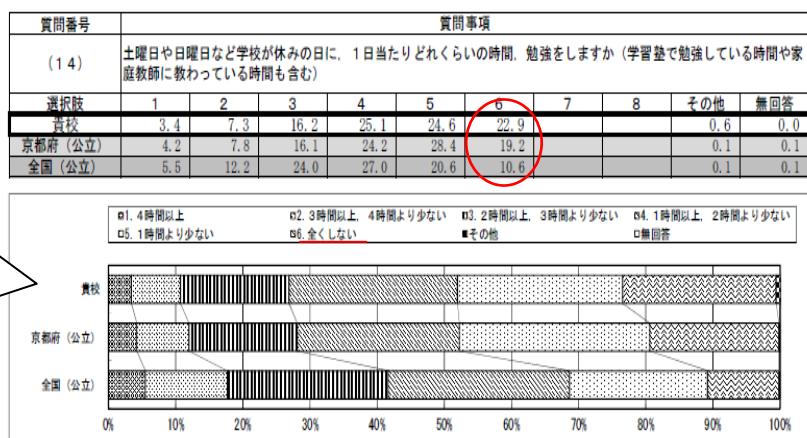
② 休日の家庭学習の時間が少ない

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、勉強を「全くしない」20%以上、1時間未満までを含めると50%近くの人がほとんど勉強をしていないと回答しています（全国は約30%）。平日の家庭学習の時間は「2時間以上」までの人が京都府・全国を上回っているだけに、休日の少なさが際立っています。



平日の勉強時間は府・全国と比べても遜色はありません。ただし平日に勉強を「全くしない」人は全国より多めです。

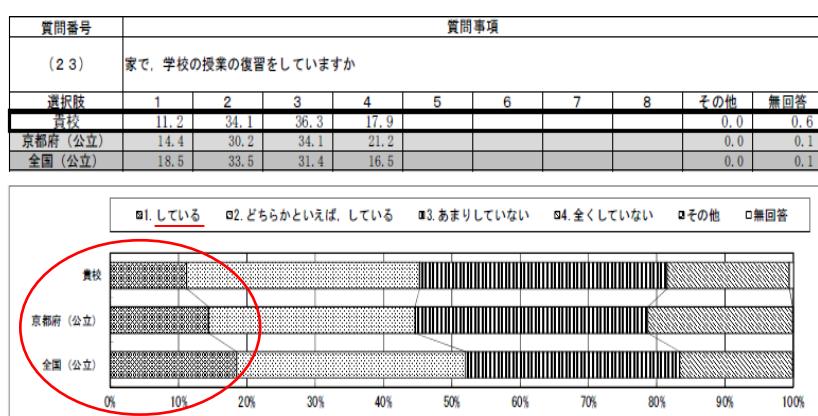
休日の勉強時間は府・全国と比べて短めです。とくに休日に「全くしない」人が全国の2倍いるのが気になります。



③ 学校の授業の復習をする習慣が弱い

家で学校の予習をしている人は、京都府・全国と同程度なのに対して、学校の復習を「している」人が、京都府・全国より少ないのが気にかかります。

学習内容を定着させる上で、家で復習する習慣は大切にしたいものです。



【全体を通した本校の成果と課題】

松尾中学校では「確かな学力を身につけた生徒の育成」という指導目標のもと、学力向上の取り組みに関しては、学習確認プログラム等の学力情報を共有して、日々の指導方法の改善に努めてきました。

本校では「確かな学力」を、生徒が基礎的・基本的な知識・技能はもとより、「習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」、さらには「学ぼうとする意欲（学ぶ喜び・目的意識・課題意識・将来展望等）」、「生涯にわたって学び続ける力（学び方を身につける・問題解決能力・自己教育力等）」を身につけることと定義づけ、授業の中で「思考力・判断力・表現力等の育成を目指した教育の展開」として言語活動を取り入れた授業の展開等を実施しています。

今回の本校結果を前回と比較した場合、数学A・Bで、前回の本校結果よりも低下傾向が見られました。同じ問題ではないので単純に比較はできませんが、今後いっそ教科の学力をつけていく必要があると考えます。

今回の結果で望ましい点は、家で宿題を「している」と答えた人が、昨年に比べて増えていることです（51.7%→57.0%）。いっぽう、授業の中で分からぬことがある場合、「自分で調べる」人が少なく、「そのままにしておく」人が多いという傾向が見られるなど、自ら学ぼうとする姿勢がまだ弱いように思われます。

また、テレビ・ゲーム・スマホの利用時間の長さと、家庭での休日の学習時間の短さは、相互にリンクしていると思われます。生活習慣の見直しと学習習慣の定着という点で、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援が必要だと考えています。



【保護者のみなさまへ】

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な取り組みの積み重ねによって定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。

ひきつづき、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにむけて、ご協力をお願いいたします。